

第8回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成29年11月14日（火） 15:00～17:00	場 所	東海村役場 議会棟2階 201・202 委員会室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，鈴木（さ）委員，鈴木（千）委員，川崎（道）委員 事務局／村長公室 企画経営課 佐藤課長，高橋課長補佐，秋山係長，照沼主事，富永主事 建設農政部 都市整備課 庄司課長，橋本課長補佐，横山係長，大内技師 欠 席／荒木田委員，久賀委員 (◎：委員長，○：副委員長)		

○当日の活動・協議内容

1 開会（企画経営課佐藤課長）

2 小原委員長あいさつ

本委員会としては、平成30年3月末に村長へ中間報告を行います。形式ばったものよりも、**資料3-1**のような形で具体化したものをまとめていきたいと思っております。また、幼保跡地エリアについては、前回、具体的な議論が進んだところ。コンセプトに照らしますと、集う面では「親水」というキーワードが出され、具体の取組みについて、ハード面・ソフト面、両面からご意見がありました。委員のみなさまからすると、「進まない・あの話はどうなっているのか」と思われるところもあるかもしれませんが、そもそも、本委員会は概念をつくり上げることが求められているかと思っております。残念ながら、ハード整備を決定・交渉方法を議論するまでは至りませんが、考え方によっては、その上のレベルでこういうものを実現したいから、こういう要望を出していくということに繋がるのではないのでしょうか。村長意向を振り返ってみても、本委員会の要望が各取組みに影響を与えるとのことでした。それを受けて、当面は、国体へ向けての取組みに村松が組み込まれます。あるいは、10～15年の間に東海村の中の村松の有りに影響を与えるものになります。村松地区として中心性をより取り戻すといった、大きな枠を作り上げながら進めていきたいと思っておりますので、本日もご協力のほど、よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 村松周辺エリアにおける「軸」の考え方について

■ 前回までに、「真砂寮用地活用やJ-PARC進入路整備が比較的短期間で見通しが立つ」という前提で村松周辺エリアの軸を設けたところだ。委員のみなさまには、改めて、真砂寮用地活用やJ-PARC進入路に関しては短期間では困難という前提で、北の入口、南の入口、あるいは、阿漕ヶ浦の方を軸とする選択肢も含め、軸についてご意見いただきたい。（小原委員長）

➔ 今の委員長の発言に対してご意見したい。真砂寮用地の活用やJ-PARCの進入路整備が短期的にできるとは私は思っていなかった。財政的な問題やステークホルダーとの利害関係を考慮すると、簡単に進むことではないが、「では止めてしまおう」という話では何もできない。5～15年スパンの話だろう。この辺りの活性化にあたっては、すぐにやらなければいけないこともある。そういったものを順序立てて取り組んでいけばいい。また、軸については、「阿漕ヶ浦から村松海岸」ではなく、駅からの動線も含めた大きな軸を捉える必要があるのではない

か。本当の村の軸は、まるごと博物館にある点在する資源を結ぶものも含めた、縦と横とまるごと博物館の点線なのだろう。その中で村松地区は重要なポイントとなる。すぐにできることは少ないかもしれないが、この委員会で方向性を決議し、みんなで盛り上げていかないと、進まないのではないだろうか。(坏委員)

- ➔ 「短期」という言い方には語弊があったかもしれない。「整備されるかどうか」ではなく、「整備の見通しがつくか」という意味だった。委員のみなさんが10～15年のスパンで考えていただいているのならば、引き続き交渉していただきたい。「できることから進める」というご意見もあったが、村松周辺エリアから取組みを始めて、JAEAが村松地区の活性化に一層の関心を持ち、整備の実現が早まる可能性もあるだろう。(小原委員長)
- ➔ 進入路は予算面でかなり厳しい状況だ。一方で、真砂寮用地については本委員会でかなり要望をいただいているところもあり、JAEAとしては、(寮の)将来計画の中で、真砂寮以外も含めて前向きに検討を進めているところだ。晴嵐の碑から人間道路までは緩衝地帯になっているので、逆に、その辺りについてこういった活用がしたいという提案があると、JAEAとしても動きやすくなるかもしれない。また、阿漕ヶ浦クラブ跡地やサッカー場には比較的、建物が少ない。公園活用の構想へ組み込んでいただくことは、現時点で、JAEAとしては否定していない。(藤田委員)
- ➔ 参道へ向かう途中の斜面の活用についてはいかがか。(坏委員)
- ➔ 一体がJAEAの土地となっているので、一連の活用可能性もあるかもしれない。(藤田委員)
- 軸はみんなで話し合っただけのものだ。ここには歴史的遺産や自然がある。公園には水が必要だが、新たに造らなくても、水は阿漕ヶ浦にあるし、海もある。そこはJAEAに協力してもらえれば有効に使えるかもしれない。協力しやすいのは、サッカーグラウンドやテニスコートの辺りだろう。「村でこういう計画がある」と、村のトップが方針を示し、JAEAのトップと話し合わないと、どうしようもないだろう。ただ、それにも理由や目的が必要だ。だから、この委員会できちんと議論すればいい。(川崎道委員)
- ➔ 構想を作ることと、村の財政面を考慮した実現性をどうするかについて、本委員会で兼ね合いをどうしていくのか。(藤田委員)
- 本委員会としては、「どういった方向で」「どうアプローチしていくか」については議論できるが、その決定はできない。軸を設定し、中心性をもたらす意味はそこにある。繰り返しになるが、あの場所がいかに重要か構想に盛り込み、村長やJAEAへ村松地区におけるあの場所(軸)の重要性を示すことができれば、次へつなげると見込み、軸をご提案した。前回まで、できる・できないの議論や、真砂寮の話に注力してしまったが、委員のみなさまの意見を伺うと、中心地であり軸ということを明確にしたほうが、村長やJAEAにアピールできると感じる。軸をこのままに、中心性を高める方策を検討するというところでよろしいか。(小原委員長)
- 具体案まで落とし込むのか。藤田委員がヒントを与えてくれたが、JAEAの立場で考えれば、具体案までないと動けないのも理解できるだろう。ただ「やりたい」と言っても、何をどうすればいいかわからない。国体開催や国道245号の拡幅もあり、今が(活性化の)タイミングということは共通認識としてある。今、整備できなくとも、計画を作り込まないといけない。従来型の役場主導ではなく、それぞれの立場で考える必要がある。住民や他団体を巻き込むことも視野に入れ、お互い良くなるようにする。自主財源のみでは限界があるだろうから、補助金の活用も見込み、知恵を出し合うべきだ。(井坂副委員長)
- 坏委員からもあったが、ある程度、10～15年先を見据えて全体の構想を立てて、具体の話を行

わなければいけない。同時に、国体までにやること、それを国体後どうつなげていくかを見せなければいけない。ボランティアの依頼のみでなく、国体を村松の活性化にどう活かしていくか。その部分が薄かった。時期も迫っているので、そこも重ね合わせながら構想、あるいは、要望としてまとめたい。(小原委員長)

- 委員長に賛成だ。国体をポイントとするべきだ。村は既存インフラが古くなってきて、修繕費等がかかってくる。ファシリティマネジメント上、税減の対処も必要だ。だからといって、既存の施設のみを動かしていくということではなく、その中で力を入れるポイントには力を注ぐべきだ。どこへ投資するか、イニシアティブを本委員会で出したい。その中で、国体をポイントとすべきだ。(坏委員)
- 国体を村松地区活性化の第一段階として、5段階・15年程度の計画を委員会で設定し、委員会ではなく、行政からJAEAへ提案してはどうか。東海駅東口は、中央地区区画整理事業で整備しているが、五反田線を貫いて、J-PARCの入口を国道245号へ繋げてあげるぐらいの気持ちが必要だ。そのぐらいの、10～15年サイクルで考えていかないといけない。この委員会でエリアの開発をおおよその形で進めていく。第一段階は当然、国体だろう。そこまでどう進めるのか、JAEAとしても提案を待っているのではないか。村としてどう計画するのか示すべきでは。今やらないと、100年経過してもできないかもしれない。千波湖と同じぐらいの景観地である阿漕ヶ浦がもったいない。15年先を見たときに、あの入口は必要だ。1割だけ努力すれば、J-PARCの入口もできる。その位の気持ちが必要だ。(川崎敏委員)
- ➔ この委員会で新しい価値をつけることに意味があるのではないか。(小原委員長)
- ➔ 阿漕ヶ浦周辺の絵(将来図)は委員一人ひとりの頭の中にあるだろう。それをまとめるだけなので、そこまで難しい話でもないのだと思う。(川崎敏委員)
- ➔ 今は絵を描いている段階だ。私としてはできることから思っている。例えば、八間道路が砂丘かどうかは調査すれば、すぐに分かる。砂丘として認定されれば、学術的にもオーソライズされ、あの場所に光が当たる。すぐに道路ができなくとも、既存の道路を整備することによって、変化がある。2・3年のうちにはできることを行い、空間として新しい価値ができた頃に“どん”と(大きな取組みを)行う。全体として絵を描きつつ、かつ、動いていることを見せないと、進まない。時間の区切り方として、私は2段階程度と考えている。(小原委員長)
- ➔ ご意見に賛成だが、青写真にどうアプローチするか、戦略的に進める必要があるのではないか。ステークホルダーがwin-winにならなければいけない。戦略を立てて、ある程度の失敗を覚悟の上で進めるべきだ。それを本委員会で決議すればいい。(坏委員)
- ➔ 現在、水戸市の弘道館周辺を工事している。水戸一高までの道程は昔とがらっと変わった。あそこに大手門ができれば素晴らしい。そういうビジョンをもって取り組む必要がある。委員会で視察へ行ってもいい。(川崎敏委員)
- ➔ 次回以降議論する細浦青畝エリアを含め、全体の間接報告を平成30年3月までに行う。今仰ったように戦略的な部分も盛り込みながら、中間報告としてまとめたい。中心性をはっきりさせるための軸であり、もっと言うと、絵を描くための軸ということで、ご賛同いただいた。村松周辺エリアの軸については、第6回委員会で決定したとおりとしたい。また、10～15年スパンで検討する必要があることも共有できた。当面は、国体までに全体の絵を描く。時間軸を2つぐらい意識して、やれることをまとめる必要があるのではないだろうか。事務局としては、体系イメージとして、中間報告へ向けて資料3-1・3-2でご提示いただいた。資料2について、事務局より説明をお願いする。(小原委員長)

(2) 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画の体系（イメージ）について

※企画経営課 照沼主事より資料3-1・3-2について説明（省略）

- 中間報告へ向けての枠組みを提示いただいた。個別の細かい部分でなく、まとめ方・考え方についてご議論いただきたい。体系図なので、簡潔にしっかりとまとめる必要があるが、追加・修正した方が良い部分等について、ご意見があればお願いします。（小原委員長）
- 資料2について、平成30年以降、時間軸や取組み優先度を考えていくことには賛成する。しかし、平成29年度に「エリア別の方針を定める」とあるのが気になる。エリアの個性を重視することも良いかもしれないが、骨が必要だ。目的へ向かって骨を決めたとき、軸へアプローチする戦略論が欠けている。資料3-1について、基本理念と基本的な考え方の中に軸が必要だ。軸と戦略論が入らなければいけない。パーツとパーツを進めても、ベクトルが合うとは限らない。取組みの順序を決めるのにも戦略が必要だろう。（坪委員）
- エリア別の方針を定めつつ、全体を固めつつ修正していくとあったので、具体的な取組みが出てくれば変わるところもある。全体像を固めながら修正していきたい。文言を追加することも検討したい。（小原委員長）

10分間休憩

- 何を意見すればいいかわからない。そもそも、あのエリアをこうしたいという絵をみんな抱いていて、それがキーとなる。「エリア別…」や「中間報告…」と聞くと、困ってしまう。村松地区周辺の地域活性化なのだから、できることから洗い出していけば進むのではないだろうか。（鈴木さ委員）
- 確かに、具体的な取組みが幼保跡地エリアしかないところだが、スケジュールも当初より遅れているので、計画を立てつつ、全体像のまとめ方についても考えていかなければいけない。（小原委員長）
- 基本的にはこのような体系になるのかと思う。ただ、平成29年度で括られている部分について、言葉の遣い方かもしれないが、「基本的な考え方」とは何の基本的な考え方なのか。「エリア別将来像」ともあるが、「将来像」だと難しい。「エリア別テーマ」なのだろう。村松周辺エリアならば、歴史と科学の要素が入っている。そういったところについて、補足したものがこの間にあると、よりまとめやすいのかと思う。（安尾委員）
- 確かに、タイトルと内容に齟齬がある。分かりやすい言葉へ修正していきたい。（小原委員）
- これが埋まれば、中間報告の報告書イメージということによろしいか。（安尾委員）
- 補足やリード文は多少入るかもしれないが、そうだ。追記等した場合は、改めて委員会でお示ししたい。（照沼主事）
- 中間報告については、国体までで区切るのではなく、例えば、15年長期も含めた内容を入れていきたい。（小原委員長）
- 内容について委員へ問いかけているのか（川崎敏委員）
- 内容ではなく、あくまで体系（報告の枠組み）についてお諮りしている。（小原委員長）
- 資料3-2の、エリア別取組み方向性が委員会の意見を簡単にまとめたものなのだろう。そうすると、上からではなく、下からだ。その中から将来像をつくり、戦略を検討するのではないだろうか。それから、「基本理念」というよりも、これが「基本的な考え方」にあたるのではないか。もうひとつ上に、村松地区をどうしたいという「基本理念」があるのではないだろうか。上から進めるのは難しい。「基本理念（コンセプト）」を踏まえて、「エリア別取組みの方向性」

を導き出した。「将来像」がテーマでしかない。私たちにとって、「将来像」とは、こうなるというイメージだが、これは、将来像の割にぼんやりしている。(川亦委員)

- ➔ 確かに、これは「テーマ」に近いかもしれない。「将来像」としては“行ってみたい”，“住んでみたい”が達成され、最終的に活性化になる。そういったものだろう。(小原委員長)
- 平成 30 年の国体で人が大勢来る。そのとき、村松地区へ「行ってみたい」と思ってもらうためには、その周辺の一部だけでも整備する等しないと進まないのではないか。細浦青畝エリアや幼保跡地エリアと分解してあるが、そうするとすごく難しい。村松地区全体を楽しんでもらうということにするならば、この際、短期的には細浦青畝エリアは取り組まない。幼保跡地エリアは駐車場にする等、実現可能な策がないと、人が来たはいいが、駐車できない等の現実になるのではないか。宣伝手段の検討や、大神宮や虚空蔵堂の順路図作成、阿漕ヶ浦で早朝トレーニングできるように等していかないと、そして、「将来的には宿泊や買物ができるように…」としないと、中々進まない。道の駅があのできたり、県内のおいしいものが食べることができたりということは、この延長線上に描いている。(鈴木さ委員)
- ➔ 例えば、国体までの絵(面的な取組み)を図に落として、中間報告へ入れることとしてはいかがか。(小原委員長)
- ➔ 国体までの絵は、すでに行政で描いているのではないか。(川崎敏委員)
- ➔ 国体までに、村松地区をどう商品として提案するかはまだだろう。それはこの委員会の役割だ。実現可能かどうかは別として、他の課で検討するイベント等で村松地区を意識してもらうように提案はできる。(小原委員長)
- ➔ 行政の計画は、阿漕ヶ浦・公園・ホッケーグラウンド・駐車場整備等は描いているだろう。最初に提示された以上に進んでいないのか。(川崎敏委員)
- ➔ あのとおりに進んでいる。あれ以上のものはない。(庄司課長)
- ➔ 国体までの取組みについて、この委員会で議論して間に合うのか。私は間に合わないと思う。(川崎道委員)
- ➔ 実際のところ、国体は「契機」だ。東海村が関わっているのはホッケー競技と笠松運動公園の開会式であり、人が多く来るのは開会式だ。川崎敏委員が言いたかったのは、そこの活動についてではないか。(井坂副委員長)
- ➔ 国体グラウンドの観覧席は 500 人か。(川崎敏委員)
- ➔ そうだ。(庄司課長)
- ➔ 500 人しか収容できないグラウンドを造らない。来ても、せいぜい 2,000 人だ。だから、駐車場も小さくまとめようとしている。それ以上に人を呼び込んで、村松周辺を散策してもらうという考えがない。国体と村松の活性化を結び付けるのにはあまりに時間がない。新たなイベントを村松地区で国体のために実施することは考えられない。国体を契機に再開発して、15 年計画するならば分かるが、国体のために本委員会が関与するわけではない。(川崎敏委員)
- ➔ 「国体を契機に」と副委員長が仰ったが、「契機」をどう捉えるかだ。村長からは国体時の活性化策も期待されている。説得力がある要望が出たとしても、村長も人なので、国体を契機に何かをやることとなれば、JAEA との交渉に力を入れてくれるかもしれない。(国体と絡めることは無理だとした場合、) 要望だけ言う委員会と捉えられないか、少し怖い。(小原委員長)
- 阿漕ヶ浦の整備は国体が終わった後に行われるのか。(川亦委員)
- ➔ 未定だが、目標は持っている。国体後に遊歩道を完成させる。最終的には、遊歩道を 1 周つなげたい。(庄司課長)
- ➔ 国体を契機として、繋がるようなものは何もないのか。国体前から整備を考えていて、国体を

契機として整備を進めるということを抑っていると感じた。(坪委員)

- ➔ そうだ。国体までに全て完成するわけでない。ホッケー会場は国体までに造る。現在の公園の改造も行っている。それは、本活性化の始まりだと思っている。(坪課長)
- ➔ 国体を契機として整備したものに付け加えてということか。(坪委員)
- ➔ そうだ。今後も続けていかなくてはいけないと思っている。(坪課長)
- 国体が終わり、村松周辺の活性化もそれで終わりでは寂しい。本委員会で15年程度の様々な資源をくっつけた計画を立てないといけない。国体が終わったからもういいとなってしまう。(川崎敏委員)
- ➔ 例えば、(国体の来場者を)海岸線へ誘導する取組み等スタートできるかもしれない。間接的でも有機的に色々なことがつながっていると考えないと、国体があっても何もしないこととなる。(小原委員長)
- ➔ 500人収容する競技場ができるのならば、阿漕ヶ浦が見えないとだめだ。皇族が来るとも言われている。(阿漕ヶ浦の)法面はJAEAの土地か、民間の土地か、行政の土地か。(川崎敏委員)
- ➔ 民間の土地だ。(坪課長)
- できることから着手するのは大事だ。それが長期的な戦略にも繋がる。議論が具体的話になってしまったが、体系図については、ご意見をお預かり、修正したい。次回だが、エリア別議論を再スタートする。細浦青畝エリアの議論を行う。その後、もう一回村松周辺へ戻る。最後に、中間報告を行うための資料を委員会へお諮りし、3月に村長への中間報告を行いたい。(小原委員長)
- ➔ 細浦青畝エリアよりも直近では阿漕ヶ浦の法面整備等を絡めることができるかを議論した方がいいのではないか。細浦は田んぼで、あの道(五反田線からの延長道路)を造れないのは分かっている。そこの活用よりも、ホッケー競技と大神宮・虚空蔵堂をどう絡め、国体後、どう活用するかではないか。もし、見学するならば、そちらが先なのではないか。阿漕ヶ浦公園も、伐採等が行われ、結構変わっていると聞く。(川亦委員)
- ➔ エリア別に考えなくてはいけない理由がわからない。「できることからやる」という話が出ているにも関わらず、なぜ、細浦青畝エリアの話をするのか。「この流れを踏まない」と話が進まない」や「すでに決まっていることをやらないと報告できない」ということか。(鈴木さ委員)
- ➔ そういうことではない。(小原委員長)
- ➔ それならば、細浦青畝エリアは置いておいて、メインの村松周辺エリアで何ができるか具体策を挙げていかないと、時間ばかり経過してしまう。(鈴木さ委員)
- ➔ 逆に言うと、村松周辺エリアで時間が止まっていた。委員長としては、かなり危機感を持っている。それで時間をかけると、国体までにできないことが多々できてしまう。(小原委員長)
- ➔ それだけ大事なエリアなのだろう。国体までにできることを提示していただくことや、こちらからアイデア出しを行わないと、しこりが残るのではないか。(鈴木さ委員)
- ➔ 細浦青畝エリアは何をどうするか分からない。(川崎敏委員)
- ➔ 真崎城跡と権現山やヤマザクラ等の自然がある所だ。国体までにはたいした時間はない。そうすると阿漕ヶ浦だ。水辺に草が茂っており、東海十二景の碑から阿漕ヶ浦が見えない。湖の周りをきれいにして、国体を目的に来た人に見せたい。村松周辺エリアが落ち着いてから、細浦青畝エリアの議論としてはどうか。(川崎道委員)
- ➔ みなさん、村松周辺エリアの議論を希望されるということなので、次回、村松周辺エリアについて議論し、そして、細浦青畝エリアを議論し、中間報告としたい。(小原委員長)

- ➔ おぼろげながら、みなさん絵をもっているとのことなので、それを事前提出した方が前に進むのではないか。(井坂副委員長)
- エリア別に議論しなければいけない理由は、予算等のためか。(鈴木さ委員)
- ➔ 整理しやすいようにということだろう。(川崎道委員)
- ➔ 国体という契機があり、何か(活性化が)できるかという話があったにも関わらず、国体までで時間を区切って何かをまとめるという議論にならないのが不思議だ。また、「長期を見越してこの地区をこうしていく」という報告があった方がいいのではないか。そうすると、いろんなことが絞られ、簡単になる。そのときに、決めたことを広げてみたら、合うか合わないか修正し、繋ぎ方を考える。そうすると、国体までに何ができるかを絞って考えられる。それが今のお話だとすれば、そこを置いておいて、全体を議論し続けるのは、今までの話と矛盾すると感じてしまう。予算等のスケジュールは決まっていて、時間軸で取組みを切らなくてはならない。短期的・中期・長期で区切ってみて、できることからやってみる。それ以降はそれ以降で引き続き、国体に関する(短期的な)取組みを踏まえた上でさらに進める。そうしないと、いろんなことが発散しているという印象だ。細浦青畝は意見があったように、そんなに時間をかけなくていいのではないか。例えば、次回委員会前半で、集中して議論した方がいいだろう。(安尾委員)
- ➔ 当初はそういう進め方をしてきたところもあったが、国体のための委員会でないという意見があり、苦肉の策で進めてきた。国体のための委員会でないことは間違いない。「契機」をどう捉えるかについて、委員のみなさまと共有できず混乱を生じさせてしまったかもしれない。なぜ、エリアを3つに分けるのかは、お話をいただいたときに3つのエリアを提示され、今からそれを崩すわけにはいかないということがある。今年度は、今回は村松周辺エリアへ戻り、それを踏まえながら全体を調整し、細浦青畝エリアの議論の後、中間報告を行うことを改めてご提案したい。副委員長からもあったように、事前に意見を受け付けることも、引き続き行いたい。(小原委員長)
- ➔ 提案したい。資料3-2のように、これまでに様々な意見は出ている。資料3-1形式でもいいので、これまでの意見を一度まとめて、委員会へ提示し、取組みの方向性等で言い足りないところを議論し、まとめればいいのではないか。細浦青畝エリアはもう1回ぐらい議論して、まとめればいいのではないか。(川崎道委員)
- 確認だが、地図には、阿漕ヶ浦周辺エリアの4つのエリアがあるが、委員長が仰る村松周辺エリアは阿漕ヶ浦周辺を含めたものか。(川亦委員)
- ➔ そうだ。(小原委員長)
- 冒頭に申し上げた、「基本理念」と「基本的な考え方」との間に軸が必要だということと、軸へアプローチするための戦略の必要性の話がある。これには関係者が助け合わないといけない。そういった戦略論も書き加えていただきたい。意見の事前提出があるのならば、そういったところのサンプルもお願いしたい。(坏委員)
- 国体というイベントを利用するならば、国体が開かれる時は「平成」の次の元号となる。皇族がいらっしゃる可能性が高いのならば、村から働きかけて、食事をして碑を造るなど戦略としてできないか。例えば、虚空蔵堂に来てもらって、まず、この地に来たら、お参りをするように誘導できないだろうか。そういうことは、ソフト的な取組みとして可能ではないか。国体をきっかけに、子ども達に道沿いに毎年桜を植えてもらう等の戦略が組めるのではないか。(鈴木さ委員)
- ➔ 皇族がいいたら、水辺で手を洗ってもらい、(その後)名所として活用させてもらうような

ことが活性化なのだろう。(川崎敏委員)

- ➔ 今後は「健康寿命」というキーワードが出てくる。国体をきっかけに、健康増進のための道を整備する等行えば良いのではないか。(鈴木さ委員)
- ➔ 伊勢神宮の分霊を祀っていること等と関連させ、皇族に手を洗ってもらいたい。(川崎敏委員)
- ➔ そういった話は初回の頃は出ていたが、いつの間にか消えていた。そのような間接的・有機的なことが空間の価値付けに繋がるのだろう。それを含めて次回、村松周辺エリアについて議論し、細浦青畝エリアでの議論の際も、エリアで区切らないようにしたい。委員会は時間が限られている。連続している残り3回とを考えていただきながら、直接的・間接的なハードも含めご検討いただきたい。また、事前にご意見を頂戴できるようにしたいことと、次回、村松周辺エリアについてはある程度固めないと中間報告に間に合わないことを踏まえながら、ご提案いただきたい。(小原委員長)
- ➔ 時間がないようなので、次回には、今まで出た意見をまとめて、報告(案)のタタキ台を提示できないのか。(川崎道委員)
- ➔ 中間報告(案)はまだご提示できない。今ご議論あったように、委員のみなさまからプラスαの意見あるようなので、次回議論をした後、中間報告(案)を示すこととなる。(小原委員長)

(3) その他(事務局より)

- ・次回委員会：12月～1月頃 予定

4 閉会(佐藤企画経営課長)

(以上)